

# ちわいす

2023

お盆号

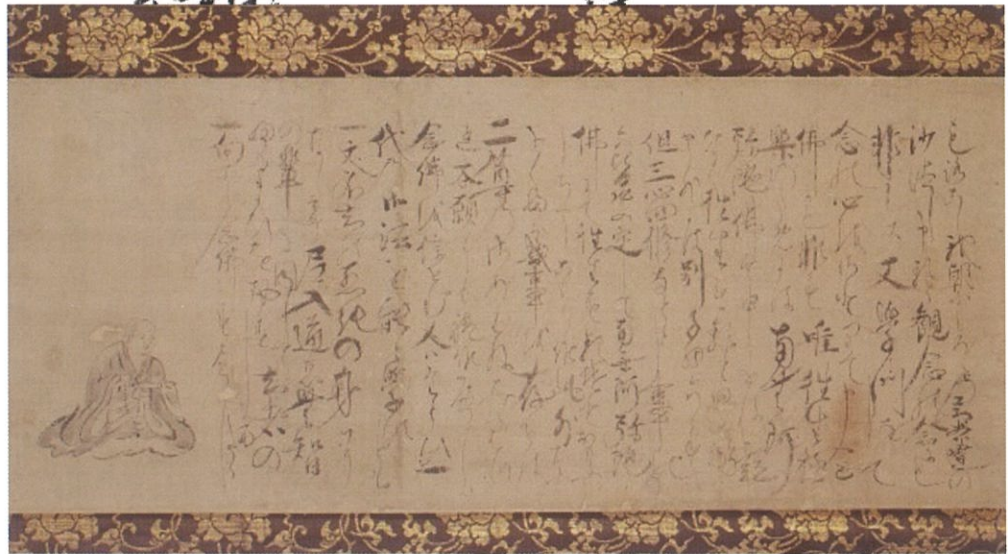
VOL.168

浄土宗西山深草派宗務所  
総本山 誓願寺

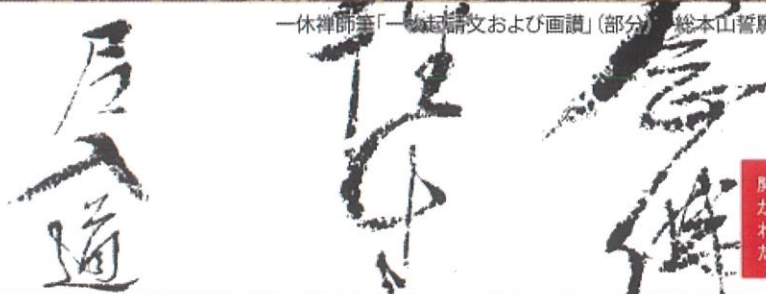
## ◆ 目次 ◆

- 開宗八百五十年に向けて 16
  - 賢問子行状記 37
  - 総本山誓願寺 本山納骨の御案内
  - お釈迦さまの十大弟子 28
  - インド **ド** **タ** **バ** **タ** 夫婦道中記 62
  - 総本山誓願寺だより
  - 何でも お寺探偵団 Vol. 66
- 九品山 浄土寺

## 元祖法然上人 開宗850年 慶讃大法要



一休禅師筆「一物起請文および画讃」(部分) 総本山誓願寺 所蔵



その時、  
門は  
開かれた

令和6年4月21日～25日 巖修  
浄土宗西山深草派 総本山 誓願寺



# 開宗八百五十年に向けて

16

布教師会 長谷川晃雄

## お念仏のバトン

仏教の開祖、お釈迦さまは一代で八万四千の教法を説かれました。お釈迦さまがこの世に出現された本来の意思は、まさしく阿彌陀仏の本願（我々を救済する誓い）をあらわして、生きとし生けるものがお念仏によって救済されることを今生きる我々に遺されたことでもあります。

そしてこのお念仏の源流はお釈迦さまから時を経て唐の高祖善導大師へと伝わっていきましました。善導大師は『観無量寿経』というお経さまを解説した注釈書『観無量寿経疏』（以下『観経疏』）の中で「上より来、定散両門の益を説くといへども、仏の本願に望むるに、意、衆生をして一向に専ら弥陀仏の 名を称せしむるにあり（お釈迦さまは、極楽浄土に往生できる良い行いについて説明してきましたが、阿彌陀仏の我々を救済したいという誓いの意図を考えてみると一番大切なことは、一向に専ら阿彌陀仏の名前をお称えすることなのです）」と解説されました。

元祖法然上人はこの『観経疏』を園城寺（二井寺）からお借りになり、善導大師のご

本心を見極めるが如く読み返されること三回目、ついに先の文章にたどり着かれたのです。法然上人は感激のあまり借り物の『観経疏』を涙でぬらしてしまふほどの「お救い」に逢われたのです。

承安五年（一一七五）法然上人四十三歳。今から八百五十年前、これが正にお念仏を称えることを主とする仏道、浄土宗の開宗の時でした。

このお念仏「南無阿彌陀仏」は真実他力であり、真実他力とは、「私がお念仏を称える」ことは、それが実は自分の力ではなく、仏さまの力によるものだという事です。即ち、私たちがお念仏するのではなく、仏さまにお念仏さしめ頂いているのです。いわば、この世の生物が生きたために絶えず空気を吸うのと同じ様に、「忘れずに行う」とか「努力する」という意識はなく、ただただ仏さまの本願（我々を救済する誓い）のままお念仏をお称えする私なのです。法然上人の一枚起請文にある「ただ一向に念仏すべし」であります。

当派京都地区では、毎年一月十日〜十五日まで「寒念仏修行」を実施しており、京都地区の僧侶約二十名が毎夜お念仏をお称えしながら、京都市内の各寺院さまのお檀家さまのお家を回りご先祖さまのご供養とそのお家の

一年の無事を祈願します。その修行に私の弟子である当時小学五年生の倅も同行させて頂く機会がありました。寒中、長い距離を歩くのですが、ふと倅を見ましたら、合掌の手をほどこことなく、ずっとお念仏を称えている姿がありました。ただ一向に、ただ真面目に、称えるという自力も意識せず、出る息の様に自然とお念仏だけが口から出ておりました。

「ああ、これが真実他力のお念仏であるのか！」私は倅のその姿に法然上人が『観経疏』を涙でぬらされたお姿を思い浮かべました。八百五十年のむかし、いや千年以上も前から、数百万、数百億の人々がお念仏を申すことによって安らかに生き、これによって安らかに往生なされていかれたことは確かではありません。現代の大人になった私たちは少しばかりの学識や教養があることによってかえって素直さが無くなり、自然とお念仏を申し難くなっているのではないのでしょうか。

やはり、「ただ一向に念仏する」ことが肝心なのであります。お念仏をお称えすることによって信じる気持ちの湧き、人間の利己的な物質生活から利他的な精神生活へと目ざめることが出来るのです。そうすれば、心に余裕、心に幅が出来て「皆が幸せに」と「慈心をもってあい向かい、仏眼をもってあい見る（慈しみの心を持って人に接し、仏さまのように優しい眼で互に見つめ合う）」ことが出来るようになるのです。

どうか皆さま、法然上人がお念仏によって世の人々をお救いになられたように、我々も次の世代にお念仏のバトンをつなぎ、苦しみ悲しみが多く、暗闇で迷い続けている世の人々の心を、慈しみの心で太陽の様に明るく、月の光の様に優しく照らして、皆を幸せにしていこうじゃありませんか！



# 賢問子行状記

宝蔵寺住職 小島英裕

37 最終回

あとがき 読者の皆さまへ

『賢問子行状記』は、誓願寺の草創および、本尊阿弥陀如来さまのご縁とご利益を記述したもので、誓願寺にとって貴重な文献です。沙門春澄によって宝暦十二年（一七六二）に著されましたが、昭和七年（一九三二）九月の誓願寺本堂火災および本尊損傷・昭和十二年（一九三七）四月の本堂再建および本尊修復に伴い、当時の執事長、成田準弘上人のもと、再び出版されることとなりました。そして、この『賢問子行状記』は『誓願寺縁起』の続編です。特に賢問子の誕生秘話については、『誓願寺縁起』にはありません。その誕生秘話の中心が春日大明神であることは見逃せません。すべては賢問子のご両親が三日間、春日大社にお参りされたご利益により、神の申し子として賢問子は生まれ、誓願寺本尊阿弥陀如来さまの出現と繋がります。

りトイレに行けなくなったお婆さんは、息子夫婦が布団の上でトイレをしても良いというのに、枕元に立たれる阿弥陀如来さまに申し訳ないから出来ない」と拒絶します。ある時、奈良から京都に遷座される誓願寺阿弥陀如来さまの行列を見たいと無理を言い、何故か阿弥陀さまの車がお婆さんの目の前で動かなくなる事態が起こり、気が付けばお婆さんが亡くなっていたという物語です。

第十四話「松宮氏、子を捨て親を養う」は、今も誓願寺門前にある「迷子の道しるべ」の元となったと考えられる親子再会の物語です。

第十六話「尾上女、現益を蒙る」は、足利義政將軍の家臣、大場帯刀の一人息子、左近と御台所に奉公していた尾上という女性との恋愛物語です。尾上は、女人禁制の高野山で修行中の左近を訪ね、最後は結ばれるというお話です。

第十七話「証入坊、正念往生」も京都七条の松屋という人の恋物語で始まりますが、松屋の七十歳の父親の反対により結婚できなくなり、松屋は誓願寺で出家の身となり証入と名を改めます。やがて親子で誓願寺に一

週間お参りし、ようやく父親も大念仏の行者となります。悪人を善人へと導いた証入の孝行の物語です。

第十八話「寿安、お告げを得て正念往生」では、寿安は出家し貞誉となりますが病に倒れます。しかし最後まで葉を飲まず、周りには、「称名念仏を相続すれば最後は極楽往生できる。さあ臨終念仏を一緒に称えてください」と息絶えました。見れば、顔色は鮮やかなまま微笑んで、しかもしばらくすると、貞誉は念珠を数回繰ったという物語です。

誓願寺にまつわる念仏往生のエピソードを、是非バックナンバーでご確認を！

## 成田準弘上人略歴



明治十八年（一八八五）愛知県海部郡生まれ。幼少期に蓮華寺二十四世定空準恕上人に入門。明治四十五年（一九一三）二月、清水坂宝徳寺三十二世、同年七月、蓮華寺二十六世に晋山。五重相伝開筵のほか、労資協調を目的とする精華会を結成するなど社会活動も積極的に行う。清水寺の大西良慶僧正と親交が深かった。大正十四年（一九二五）十月、広島誓願寺二十四世に晋山。昭和十二年（一九三七）、五十三歳で浄土宗西山深草派執事長に就任。昭和七年の火災で損壊した本尊を修復遷座。昭和十四年（一九三九）執事長を辞任。昭和二十年（一九四五）八月六日、原爆直下の広島誓願寺において示寂。享年六十一歳。



# 総本山誓願寺 本山納骨の御案内

\*本山納骨をご希望の方は、檀那寺(菩提寺)にご連絡ください。

## ◆永代納骨『全骨』

(金、三百万円也)

## ◆永代納骨『分骨』

(金、二十万円也)

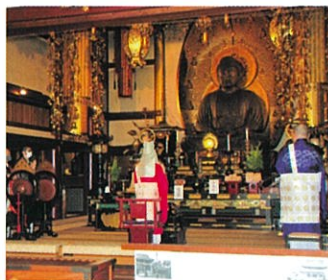
- ◎総本山誓願寺ご本尊の須弥壇下にある納骨堂にて永代にわたり安置致します。
- ◎本堂および納骨堂(誓願寺舍利殿)にて納骨法要を勤修致します。
- ◎ご命日には故人さまの戒名を読み上げ供養致します。
- ◎読経回向をお申し込みの際は、故人さまのご遺骨に對面いただけます。
- ◎春・秋のお彼岸には、読経回向のご案内を致します。
- ◎『全骨』では、ご遺骨の一部(分骨)を誓願寺に、残りのご遺骨は京都深草の真宗院内にある納骨堂にお納め致します。



真宗院納骨堂



誓願寺舍利殿



納骨法要

## ◆須弥壇納骨『分骨』(金、十万円也)

- ◎総本山誓願寺ご本尊の須弥壇下にある納骨堂にて二十年間安置致します。
- ◎本堂および納骨堂(誓願寺舍利殿)にて納骨法要を勤修致します。
- ◎ご命日には故人さまの戒名を読み上げ供養致します。
- ◎読経回向をお申し込みの際は、ご遺骨に對面いただけます。
- ◎春・秋のお彼岸には、読経回向のご案内を致します。
- ◎永代納骨への切替も可能です。(金、十万円也)

## ◆普通納骨『分骨』(金、五万円也)

- ◎本堂で納骨法要を勤修した後、京都深草の真宗院内にある納骨堂に合同でお納めします。
- ◎永代納骨や須弥壇納骨への変更はできません。

※お盆期間(八月十三日~十五日)は本山納骨のご予約を承ることができません。



お釈迦さまの  
ご生涯  
外伝

# お釈迦さまの十大弟子 28

絵・豆田織奈 文・釈尊法話会

密行第一羅睺羅尊者(その5)



出家した悉達太子に代わり、羅睺羅はカピラ城の跡取りとして大切に育てられました。いずれは国を治める王となるべく、学問や教養、帝王学を学び成長していききました。そして月日が流れました。

お釈迦さまが仏陀となられてから初めてカピラ城にお戻りになられた時、羅睺羅は生まれて初めて父を見たのです。粗末な身なりでしたが、尊い父の姿を見て、幼い羅睺羅は嬉しくなり、すぐにお釈迦さまに懐きました。

「お父さま、わたしに宝物をください！」  
羅睺羅は小さい手を差し出してお釈迦さまに頼みました。

「息子よ、世界で一番貴重な宝物をあげよう。ついてきなさい」

と言うと、羅睺羅を城の外へ連れ出しました。そして、近所の林の中で宿をとっている弟子達の所へ行き、舍利弗尊者にこう言いました。

「舍利弗尊者よ、わが子の羅睺羅である。羅睺羅は私に宝物を求めている。そなたが師匠となり、最上の宝物を与えるのだ」  
「お釈迦さま、承知いたしました。必ずや羅睺羅に最上の宝物を与えましょう」

舍利弗尊者はそう言うと、羅睺羅を連れて目連尊者の元へ行きました。

「目連尊者よ、この子はお釈迦さまのお子さま、羅睺羅である。お釈迦さまより、羅睺羅に最上の宝物を与えよとご指示があった。今より私は羅睺羅の師匠となる。

目連尊者よ、羅睺羅の為に剃髪をして頂きたい」

「舍利弗尊者よ、わかりました」  
目連尊者は剃刀を持ち、わけがわかっていない羅睺羅の頭を剃り、羅睺羅を出家させてしまったのです。

お釈迦さまが羅睺羅に与えた宝物とは、カピラ城で争いに巻き込まれる修羅の人生でなく、出家者として覚りを求める人生です。羅睺羅の本当の幸せを考えたいのことでした。

(つづく)



剃髪をされる羅睺羅





東龍寺住職 岩瀬賢良

初めて生ビールに  
ありつけた!

香辛料を買ってからメイン・バザールの店を見て歩いていると、服屋の軒先に吊してある男物の上だけのパンジャビ・ドレスが目にとまり、それと女物のTシャツを利子が気に入ったので、前者を八〇ルピー、後者を七〇ルピーの合わせて一五〇ルピー(約三七五円)で買い、ホテルに戻り、買った物を置いて遅めの昼食を、カレーや軽い食事に飽きてきていたお腹をちよつと豪華に満たそうと、再び外に出てオート・リクシャーでコンノート・プレイスのLブロックに行き、ニルラズ・ペガサス・バーという店に行った。その店の情報は、朝食を食べに行ったゴールデン・カフェで会った長期滞在らしき三人の日本人に教えてもらい、アルコールは何でもあり、食べ物も欧米の食材が豊富で、しかもそんなに高くはない店だとのことだった。

真つ昼間なのに店内は薄暗く、さすがにインドらしくアルコールを出す店の持つ後ろめたさが漂っているのだが、中にいる客は明るい雰囲気、インドに来て初めて口にできる生ビールがあったので、思わずピッチャーでも高くはなく二六〇ルピー(約六五〇円)だった。それとマッシュルーム入りラム・バーガーを一六〇ルピー(約四〇〇円)と、チーズ入りヴェジタブル・バーガー、一五六ルピー(約三九〇円)を頼んだ。久々の生ビールを楽しんでいると、同じテーブルで生ビールを飲みながら食事をしていた中年の男性が話しかけてきて、彼は近くの会社で車のセールスをしていると言った。昼間だからこんな店で飲んでいるのだから、かなりの給料を貰っているのだろうと僕は思っていると、今度は突然ピッチャーをおごってくれると言うのには二重の驚きであった。ピッチャー

は量が多すぎるからと断つても、彼は強引に、「おごりだから飲め。」と勝手に注文をしまし、残すのは失礼だと覚悟を決め、僕は食べる物を断念し飲むだけに専念し何とか残さずに飲み終え、彼には丁重にお礼を言つて店を後にしたのである。再びメイン・バザールに戻った時は既に夕暮れが迫っていた。

さつきと違う服屋で男物の上下のパンジャビ・ドレスの黒系統と茶系統の二着を二〇〇ルピー(約五〇〇円)で買い、マングー二個を二〇ルピー(約五〇円)で買ってホテルに帰った。



デリー メインバザールの早朝



# 総本山誓願寺だより

## 精霊送り(盆施餓鬼)法要のご案内

毎年、八月十六日に京都では、大文字で有名な五山の送り火(精霊送り)が行われ、総本山誓願寺におきましても、精霊送り(盆施餓鬼)法要をお勤めしてお盆の間、里帰りされていたご先祖さまをお浄土へお送りします。

### ○精霊送り(盆施餓鬼)法要 一霊三千元

令和五年八月十六日(水)

法要時間 十一時・十五時・十八時

精霊送り(盆施餓鬼)法要のお申し込みは随時承っておりますのでお気軽にお申し付けください。また、施餓鬼棚へ水塔婆をお供えする水塔婆供養(一霊三百円)も承っております。

### ○お申し込み

総本山誓願寺 (〇七五) 二二二-〇九五八

## 少年少女参拝団 参加者募集

総本山誓願寺では毎年夏休みに小学校五・六年生を対象に一泊二日のお坊さん体験を行っております。今年八月二十二日(火)、二十三日(水)の二日間となります。定員は四十名、定員に達し次第、締め切りとさせていただきます。各寺院へ募集要項をお知らせしますので、詳しくはそちらをご覧ください。



## おもな行事予定

### 八月

十五日(火)

六阿弥陀功德日

十六日(水)

精霊送り(盆施餓鬼)

二十二日(火)~二十三日(水)

少年少女参拝団

※お盆期間八月十三日~十五日は本山納骨のご予約を承ることができません。

### 九月

十八日(月祝)

開山歴代忌・六阿弥陀功德日

二十日(水)~二十六日(火)

秋彼岸

### 十月

七日(土)

策伝忌

八日(日)

六阿弥陀功德日

十日(火)

数珠供養会

### 十一月

二十日(月)

西山忌

二十四日(金)

六阿弥陀功德日

### 十二月

一日(金)

仏名会

八日(金)

成道会

二十四日(日)

お身拭い式・六阿弥陀功德日

三十一日(日)

除夜の鐘



SHINNYOGOHU.SEIGANSJI

## クイズコーナー

### 【問題】

5頁「お釈迦さまの十大弟子」より、お釈迦さまが羅睺羅を出家させた理由は何でしょうか？

ハガキに、「答え、郵便番号、住所、氏名、電話番号、菩提寺(だんな寺)、感想」を書いてご応募ください。なお、ご提供いただいた個人情報につきましては、プレゼントの発送のみに利用いたします。今回は浄土寺さまより、とふめし(豆腐を使った混ぜご飯)の素を10名さま、本山謹製線香を5名さまに抽選して差し上げます。ご応募お待ちしております。

### 【宛先】 千四四三-〇一〇五

愛知県蒲郡市西浦町北馬相十一番地

覚性院内 ちかい編集係

【締切】 九月三十日

(消印有効)

答え ○ ○ ○

郵便番号

住所

氏名

電話番号

菩提寺(だんな寺)

感想

ちかい 第168号

発行日 令和五年六月十九日

発行所 浄土宗西山深草派 総本山誓願寺

京都市中京区新京極桜之町四五三番地  
電話 (〇七五) 二二二-〇九五八  
FAX (〇七五) 二二二-二〇一九

E-mail info@fukakusa.or.jp

URL https://www.fukakusa.or.jp/



# 何でも お寺探偵団

浄土寺  
Vol.66



今回は、兵庫県丹波篠山市の「九品山浄土寺」を訪ねました。

### profile

**宮田芳龍師**（九品山浄土寺 第22世 54歳）  
 地元中学校を卒業後、本山に随身して、東山高校、西山短期大学を卒業し、その後、総本山誓願寺の職員として勤務する。平成15年に浄土寺住職を拝命。

お寺の周りには沢山の田んぼが広がっていて、とても長閑な場所でした。ご住職とは総本山誓願寺での行事で何度か一緒にさせていただき、いつも和やかな表情と優しい言葉で沢山のことを教えてくださいました。お寺の中に入ると柔和な笑顔で迎えて下さり、長閑な風景と相まって愛知からの道中の疲れを思わず忘れてしまいました。



**Q1** お寺の歴史を教えてください。

当寺は、室町幕府第13代将軍、足利義輝公（1536～1565）の長子、義高（幼名・乙若丸）が出家されて天誉覚山上人となられ、丹波の国八上城城主、波多野秀治公の保護を受けて創建されたのが始まりです。

**Q2** お寺にはどんな仏さまが祀られていますか？

新しい本堂には、新たに造られた本尊阿弥陀如来三尊立像、善導大師座像、法然上人座像、位牌堂には、阿弥陀如来座像が祀られています。

**Q3** お坊さんとしての心がけを教えてください。

人と接する時は、にこやかにほほえんで、優しい言葉で話しかけることが念仏者の常日頃の心がけと努めています。

**Q4** 「ちわい」の読者に何か頂けませんか？

丹波篠山の大山地区で、約130年前から伝わる郷土料理『とふめし（豆腐を使った混ぜご飯）』があります。『とふめしの素』を10名さまに差し上げます。

浄土寺は、慶長4年（1599）篠山城築城に先立って天誉覚山上人の弟子、教善善念大徳が開山となつて、浄土寺をお開きになりました。当初、浄土寺は徳永村柴大夫の寺屋敷に創建され、その後、十王堂山上（現在の境内背後の山）に移転し、寛文11年（1671）に現在地に移転したものと伝えられています。

その後、星霜を重ね、明和4年（1767）、文政6年（1823）に二度の火災に遭うなど不幸な歴史も乗り越え、幾多の変遷を辿りながら、念仏弘通の道場として至つておりましたところ、平成27年に起こった火災により、本堂など全ての伽藍が全焼しましたが、令和元年12月に伽藍再建復興工事が竣工し、令和3年4月に再建本堂落慶式を厳修いたしました。

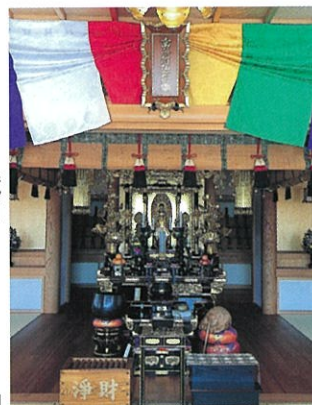
【交通】  
 JR福知山線篠山口駅より車で10分  
 舞鶴若狹自動車道丹波篠山口ICより車で10分

【主な行事】  
 修正会 1月1日  
 涅槃会 2月15日  
 春彼岸会 3月春分の日  
 灌仏会 5月8日  
 盆施餓鬼会 8月15日  
 お十夜会 11月12日

【お問い合わせ】  
 浄土寺  
 〒669-2827  
 兵庫県丹波篠山市大山新299  
 TEL 079-596-0878  
 FAX 079-506-7620



境内  
山門



▲本堂内観



▲本堂外観